



2022年度 第2四半期
H1 FY2022

決算概要



Enhancing planetary health

2022年11月10日
日揮ホールディングス株式会社

2022年度第2四半期の決算概要を説明いたします。
資料の中でH1とあるのは第2四半期累計の6か月、上半期の数字になります。

CONTENTS

目次

- ハイライト
- 連結損益計算書
- セグメント情報
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー計算書
- 受注の状況（総合エンジニアリング事業）
- 2022年度の業績見通し

(参考資料)

- 2022年度 セグメント別 業績見通し
- 地域別売上高、受注高
- 業績推移



ハイライト

- 海外プロジェクトの着実な遂行により売上高は上昇基調
- 前年同期比増収増益
- 通期業績予想・配当予想を上方修正

最初に第2四半期のハイライトです。

総合エンジニアリング事業では、海外プロジェクトの着実な遂行によりプロジェクトの進捗率が上がってきました。
第2四半期の売上高は、ここ数年の四半期実績を上回り上昇基調となりました。

前年同期比ではセグメント別、連結ともに増収増益となりました。

第2四半期までの状況を踏まえ、下期の数字を見直し、通期の業績予想及び配当予想を上方修正しております。

連結損益計算書

	H1 FY2021	H1 FY2022	【億円】 前年同期比
売上高	2,179	2,672	+493
売上総利益	208	320	+112
利益率	9.6%	12.0%	+2.4pt
営業利益	103	189	+85
経常利益	126	304	+178
親会社株主に帰属する 四半期純利益・純損失	△ 484	207	+691

連結損益計算書です。

売上高は前年同期比493億円増収の2,672億円

売上総利益は112億円増益の320億円

粗利益率は2.4ポイント上昇して12%となりました。

順調な工事遂行に伴う追加利益の計上や円安影響等により、
利益率は上振れています。

営業利益は販管費が増加したものの85億円増益の189億円

為替差益等の営業外収益計上により経常利益は178億円増益の304億円でした。

親会社株主に帰属する四半期純利益は207億円となっています。

セグメント情報

		【億円】			
		H1 FY2021 (※)	H1 FY2022	前年同期比	
総合エンジニアリング	売上高	1,956	2,418	+461	+24%
	セグメント利益	91	173	+81	+89%
機能材製造	売上高	214	234	+20	+10%
	セグメント利益	37	38	+1	+3%
その他	売上高	8	19	+10	+127%
	セグメント利益	△ 1	3	+4	-
調整額	セグメント利益	△ 24	△ 25	△ 1	-
合計 (連結)	売上高	2,179	2,672	+493	+23%
	セグメント利益	103	189	+85	+83%

(※) 第1四半期連結会計期間より、業績管理方法を変更したことに伴い、従来各セグメントに配分していた当社のグループ管理運営費用は、各セグメントに配分しない全社費用として「調整額」に含めております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の算定方法により作成したものを記載しております。

セグメント情報です。

総合エンジニアリング事業は売上高が前年同期比461億円増収の2,418億円、セグメント利益は81億円増益の173億円でした。

カナダのLNG案件、イラクの製油所案件、モザンビークのフローティングLNG案件が主なものです。

機能材製造事業は売上高が前年同期比20億円増収の234億円、セグメント利益は1億円増益の38億円です。

石油精製触媒等の輸出が増加したほか、需要が好調なファインケミカル製品も高水準での生産・販売が続きました。

その他は記載のとおりです。

連結貸借対照表

	【億円】		
	2022年3月末	2022年9月末	増減
流動資産	5,333	5,878	+545
固定資産	1,609	1,703	+94
総資産	6,942	7,582	+639
	2022年3月末	2022年9月末	増減
流動負債	2,538	3,018	+479
固定負債	527	472	△ 55
純資産	3,876	4,092	+215
JVキャッシュ 当社持分	2,396	2,376	△ 19

連結貸借対照表です。

流動資産は現金預金等の増加により前期末比545億円増の5,878億円
固定資産は投資有価証券増加などにより94億円増の1,703億円
総資産は7,582億円です。

流動負債は前受金入金による契約負債の増加などにより479億円増の3,018億円
固定負債472億円、純資産4,092億円となり自己資本比率は53.9%でした。

バランスシートに計上していないジョイントベンチャーのキャッシュの
当社持分は19億円減の2,376億円です。

連結キャッシュ・フロー計算書

	H1 FY2021	H1 FY2022	【億円】 増減
営業 キャッシュ・フロー	△ 48	889	+937
投資 キャッシュ・フロー	△ 39	△ 49	△ 10
財務 キャッシュ・フロー	△ 9	△ 105	△ 96
現金及び現金同等物の増減	△ 91	835	+927
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,591	3,716	+1,124

キャッシュ・フロー計算書です。

営業キャッシュ・フローは四半期純利益に加え受注工事の前受金入金等により889億円のプラス

投資キャッシュ・フローは有形固定資産取得などにより49億円のマイナス

財務キャッシュ・フローは配当金支払、借入金返済などにより105億円のマイナス

9月末の現金及び現金同等物残高は期初から835億円増加して3,716億円となりました。

下半期には普通社債の償還に伴う支払やこれまで受領した前受金を工事進捗に伴う支払に充当することで、現金及び現金同等物の残高は減少する見込みです。

受注の状況（総合エンジニアリング事業）

i) 受注高

	H1 FY2021	H1 FY2022	【億円】 FY2022 通期予想
海外	129	4,161	6,700
国内	1,076	472	1,700
合計	1,206	4,634	8,400

H1 FY2022
主要受注案件

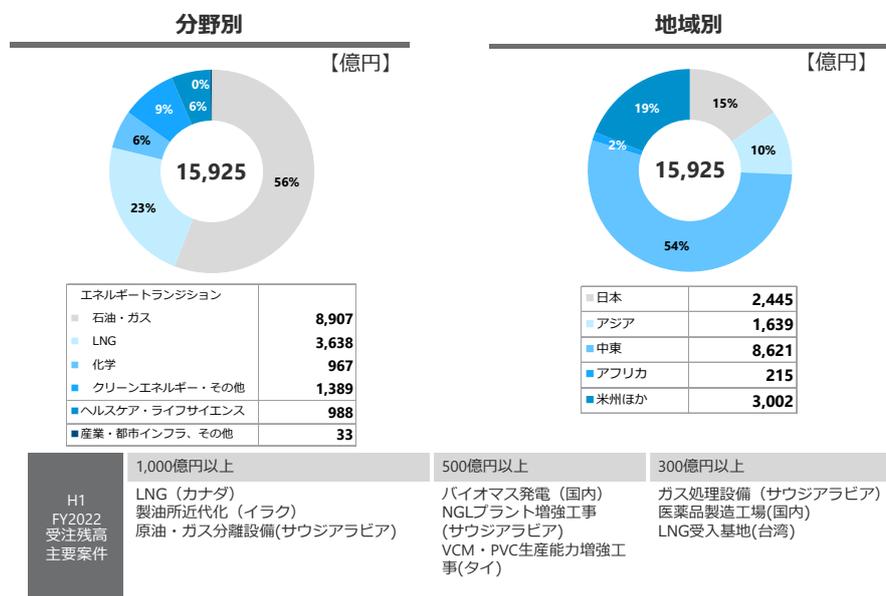
原油・ガス分離設備(サウジアラビア)
VCM・PVC生産能力増強工事(タイ)

受注の状況です。

4月から9月の総合エンジニアリング事業の受注高は、海外4,161億円、国内472億円、合計4,634億円です。

主な受注案件はサウジアラビアの原油・ガス分離設備、タイの塩化ビニルモノマー・ポリ塩化ビニル生産能力増強工事です。

ii) 受注残高 (2022年9月末)



これにより9月末の総合エンジニアリング事業の受注残高は1兆5,925億円となりました。

分野別では石油・ガスが56%、LNGが23%

地域別では中東が54%、米州他が19%となっています。

受注残高のおもな案件は、カナダのLNG、イラクの製油所近代化、サウジアラビアの原油ガス分離設備などとなっています。

2022年度の業績見通し

通期業績予想を修正しております。

	前回発表 (2022年8月)	修正後	増減		【億円】	
					H1 FY2022 実績	進捗率
受注高(※1)	8,400	8,400	-	-	4,634	55%
売上高	6,200	6,300	+100	+2%	2,672	42%
売上総利益	570	620	+50	+9%	320	52%
利益率	9.2%	9.8%	+0.6pt		12.0%	
営業利益	290	340	+50	+17%	189	56%
経常利益	360	460	+100	+28%	304	66%
親会社株主に帰属する 当期純利益	240	300	+60	+25%	207	69%
1株当たり配当金	29.0円	36.0円	+7円			
換算レート(米ドル)	130円	140円(※2)	+10円			

(※1) 総合エンジニアリング事業

(※2) 2022年10月以降の想定レート

最後に通期業績見通しです。

第2四半期までの進捗状況、外国為替相場や受注の状況を踏まえ、予想を修正いたしました。

受注目標8,400億円は変更しておりません。

売上高は前回予想と比べ100億円増の6,300億円

売上総利益は50億円増の620億円

営業利益も同じく50億円増の340億円

経常利益は、為替差益等を考慮し100億円増の460億円

親会社株主に帰属する当期純利益は60億円増の300億円です。

これに伴い、配当性向30%とする株主還元方針に基づき、1株当たり配当金予想を7円増の36円としました。

予想の前提としたドル円レートは130円から140円に変更しています。

第2四半期までの実績の予想に対する進捗度で見ると、売上高が42%となっていますが、主要な遂行中案件を中心に下期に売上高が伸びることを見込んでいます。

経常利益以下は70%に迫る進捗となっていますが、評価替えによる営業外為替差益が上期実績に計上されていることが

上振れの主な理由です。

9月末はドル円144円81銭での評価替えとなりましたが、下期はドル円レートを140円想定としているため、差益が縮小する予想としています。

参考値として、ドル円1円当たりの感応度は、売上高で28億円、粗利益段階で5億円、経常利益段階で10億円です。

以上で決算概要の説明を終わります。

参考資料

参考（2022年度 セグメント別 業績見通し）

【億円】

		前回発表 (2022年8月)	修正後	増減	
総合エンジニアリング	売上高	5,660	5,750	+90	+2%
	セグメント利益	286	327	+41	+14%
機能材製造	売上高	460	470	+10	+2%
	セグメント利益	60	65	+5	+8%
その他	売上高	80	80	-	-
	セグメント利益	14	14	-	-
調整額	セグメント利益	△ 70	△ 66	+4	-
合計 (連結)	売上高	6,200	6,300	+100	+2%
	セグメント利益	290	340	+50	+17%

参考（地域別売上高、受注高）

売上高

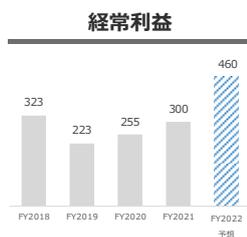
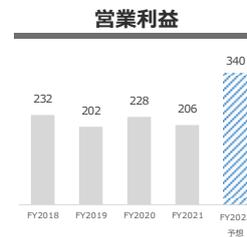
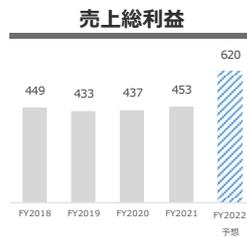
	【億円】	
	H1 FY2021	H1 FY2022
日本	715 (32.8%)	674 (25.2%)
アジア	209 (9.6%)	279 (10.5%)
中東	159 (7.3%)	545 (20.4%)
アフリカ	317 (14.5%)	224 (8.4%)
米州ほか	777 (35.8%)	948 (35.5%)
合計	2,179 (100.0%)	2,672 (100.0%)

受注高（総合エンジニアリング事業）

	【億円】	
	H1 FY2021	H1 FY2022
日本	1,076 (89.3%)	472 (10.2%)
アジア	48 (4.0%)	991 (21.4%)
中東	4 (0.4%)	3,060 (66.0%)
アフリカ	9 (0.8%)	44 (1.0%)
米州ほか	67 (5.5%)	64 (1.4%)
合計	1,206 (100.0%)	4,634 (100.0%)

参考（業績推移）

【億円】



将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
日揮ホールディングス株式会社
グループ経営企画・推進部
コーポレートコミュニケーショングループ
Tel : 045-682-8026 Fax : 045-682-1112
E-mail: ir@jgc.com